

高校時代にこそ大学の一般教養の基礎となる全教科の勉強を
—高校用参考書の最大活用を—

開倫塾
塾長 林 明夫
(宇都宮大学大学院工学研究科
客員教授)

Q 1 : 大学入試だけではなく、大学教育の内容も大分変わるようですね。

A : (林明夫：以下省略)

- (1) はい。安倍首相直轄で下村博文 文部科学大臣が担当する教育再生会議では、政治の停滞のために世界の動きから 20 年間の遅れを取った教育改革を一気に進め、日本の国際競争力を強めてデフレ経済からの脱却を図れるだけのグローバル人材の育成を目指しているようです。
- (2) 英語教育だけでも、大学入試や国家公務員試験の英語の試験を TOEFL で代用したり、高校だけではなく中学校でも英語の授業を英語で行うようにしたり、小学校 5・6 年生から正規の英語の授業をスタートしたりするなど、世界では当たり前のように行われてきたことを、日本でも行おうとしています。
- (3) 大学入試センター試験を廃し、高校卒業の前後に学力到達度テストを何度か受験させ、その最高点を希望大学に提出させて大学入試の一環とするという有力な案も出ています。大学教育の内容も変わり、一般教養が大幅に削減され、専門科目や職業訓練的な内容を大幅に入れようとしています。

Q 2 : では、一般教養の勉強はどこですればよいのでしょうか。

- A : (1) 例えば、北欧のフィンランドでは大学はすべて 3 年制で、従来型の大学の専門科目や職業に関する専門科目が中心です。すべてが大学院の修士課程の内容と連動し、3 年制の大学で学ぶ大半の人が大学院の修士課程でも学ぶことを前提に大学・大学院の 5 年間一貫教育が考えられています。
- (2) フィンランドでは、日本の大学で学ぶような一般教養科目は高校時代に学ぶようです。フィンランドの高校はすべて単位制高校で、早い人は 2 年、ゆっくりと学ぶ人は 5 年、つまり 2～5 年かけて自分のペースで高校での学習をするようです。人によっては 4～5 年かけて職業高校と普通科高校の 2 つを卒業する人もいます。単位が取れないと次の学期には進めない・卒業もできないのがフィンランドの高校です。
- (3) フィンランドまでとはいかなくても、日本でも大学から一般教養の内容が少なくなり、高校で学ばざるを得ない状況になりそうです。
- (4) 日本では大学の一般教養科目の勉強は高校までの各科目の基礎的な知識が前提となっはじめて成り立ちますが、高校程度の基礎学力が不足している高校生があまりにも多いと思われます。そこで、現在高校に通っている高校生は、自分が受験する大学の入試にその科目が出題されるかどうかに関係なく、高校で履修すべきすべての科目をきちんと学習すべきだと考えます。その上で、大学で学ぶべき一般教養の内容をたとえその一部でもよいから「放送大学」や近くの大学などの「イクステンション(大学開放講座)やコミュニティカレッジ」などで学習することをお勧めします。

Q 3 : 中学生はどうしたらよいのでしょうか。

- A : (1) 現在中学校に通っている中学生でやる気・元気のある人は、たとえ 1 科目でもよいですから、書店で入手可能な教材を用いて高校で学ぶ内容を中学生のうちにどんどん学習すべき

と考えます。

具体的には、高校の社会科は次の方法で学習することをお勧めします。山川出版社から「もういちど読む山川日本史」「もういちど読む山川日本近代史」「もういちど読む山川世界史」「もういちど読む山川地理」「もういちど読む山川政治経済」「もういちど読む山川倫理」と、高校の教科書よりも読みやすいものが 6 冊出版されています。「地図帳」や日本史・世界史ならば「図録」、政治経済・倫理ならば「用語集」（すべて山川出版社）を手元に置き、絶えず調べながら、学校で先生の授業をお聞きするようなゆっくりさでそれら 6 冊を 4 ～ 5 回じっくりと通読なさることをお勧めします。

- (2) 国語科の「古文」は、小西甚一先生の「古文の読解」（ちくま学芸文庫）をテキストにして、同じく小西先生の「基本古語辞典」（大修館書房）で大切な語句を一語一語調べながら古文の世界を知る。

「漢文」は、加地伸行先生の「漢文法基礎」（講談社学術文庫）をノートを取りながら読む。同じ加地先生の「論語」（講談社学術文庫）も一緒に読んでしまうことをお勧めします。

「現代国語」は、「名指導書で読む 筑摩書房なつかしの国語教科書」（ちくま学芸文庫）がお勧め。指導書付きの現代国語の教科書で、誰でも入手可能な本はこれだけ。実に親切でいいですね。

- (3) 「英語」は、桐原書店の「総合英語フォレスト」で十分。「音トレ(CD 付)」と「解いてトレ」という教材を併用。この 3 冊は英検 3 級に合格した中学生にも超お勧めです。この 3 冊に加えて、自分の実力に合ったロングマンの英英辞典で意味調べを徹底的に行えば、英検 2 級まで O.K. です。

- (4) 「理科」と「数学」は、中学校・高校の学習内容を分野別にわかりやすく解説した講談社のブルー・ボックスという新書本、文庫本が役に立ちます。書店や図書館でじっくりと探して 1 冊決めたら、ノートを取りながら 5 ～ 6 回ゆっくりと読んでください。数学のお勧めは、長岡亮介著「長岡先生の授業が聞ける高校数学の教科書(CD 付)」(旺文社)です。

Q 4 : 日本の高校教育で、今、最も求められている科目は何だとお考えですか。

A : たくさんあります。例えば「理科」でしたら、これほど大地震や地球環境の問題が叫ばれているのに、高校生には「地学」の勉強が欠けています。「社会」でしたら、政治や経済、文化の基礎である「倫理」の勉強が欠けています。「地学」と「倫理」はぜひ学習しましょう。また、フランスなどでは高校生にとって最も重要な教科である「哲学」の授業が、日本では全くといってよいほど行われていません。これに加えて大学で哲学を学ぶことが激減したとすれば、日本人は一体どこで哲学を学んだらよいのでしょうか。

Q 5 : 最後に一言どうぞ。

A : まとめていうと、これから高校に進学する元気な中学生、また、現役の高校生は、まずは高校レベルの内容をしっかりとしたテキストを選んで「理解」し、それらの「定着」を図る。高校生は学校の教科書、中学生は書店で入手可能なもの。高校の内容の学習が済んだ科目は、自分の関心のある分野から「放送大学」や「大学開放講座」を活用して大学レベルの一般教養を自分の力で焦ることなく身に付ける。この夏休みはその第一歩を踏み出す絶好の機会です。

大学入試はすべて秋に移行し、高校の内容の学力到達度テストは高校卒業の前後に実施。ですから、高校 3 年間は高校レベルの内容をひたすら学習し、余裕のある科目は大学の一般教養科目を学習すべきと私は考えます。

皆さんはどのようにお考えですか。

— 2013 年 6 月 4 日記 —